



手を上に伸ばす動作をスムーズにする「チェスト」



いすからの立ち上がりをスムーズにする「ホリゾン」



支配人の
岩崎ひろ子さん



機能訓練指導員の
江波戸寿樹さん



リハビリの間も、休息と水分補給は欠かせない



筋力維持や関節可動域・柔軟性改善に向けてリング体操を行う

歩行のための リハビリ機器と 楽しみながら行う 運動の両輪で 「歩く」を支える

港区芝浦。東京モノレールが走り、品川や渋谷へのアクセスも良い、まさに都心の「一等地」だ。そんな芝浦の運河沿いに建っているのが、介護付有料老人ホーム「グランクレール芝浦ケアレジデンス」。

10階建ての同施設は、自立している高齢者が入居する「シニアレジデンス」と、要介護認定を受けた高齢者が入居する「ケアレジデンス」に分かれている。そのため、もし認定を受けたとしても住み替えができ、転居することなくそのまま暮らし続けることが可能だ。実際、夫婦で入居したもので、ちらかが認定を受けただけで、一方は「シニアレジデンス」のまま、もう一方は「ケアレジデンス」に移った事例があるという。

そんな同施設最大の特徴は、「歩行リハビリ特化型」の施設ということ。今年の8月より同施設を運営する株式会社東急イーライフデザインと、自立支援に特化したリハビリ型のデイサービス運営する株式会社ポラリスが業務提携を結び、東急イーライフデザインはもとより東京都内の有料老人ホーム初の試みとしてリニューアルした。高齢者の歩行に特化したリハビリを受けられる環境を整えるため、もともとリビング・ダイニングの共有スペースだった5階を、リハフロアとしてリフォーム。

そして、ポラリスと株式会社モリトローが共同開発した歩行機器「3連P・ウォーク」や生活動作をスムーズにする「パワーリハビリ機器」を導入し、入居者が「自分の足で歩ける」ようサポートしている。既に入居している人は週に2回、8月から入居した人は週に5回リハビリに取り組んでいる。

「これまで見学に来られた方も『リハビリはどのくらいできますか』という質問が多いので、やはりリハビリに対する期待の大きさを感じています。ゆっくりはリハビリを続けることで介護度が改善できたならば、在宅復帰が実現するところまでもっていきたいというのが目標です」と、支配人の岩崎ひろろさんは話す。

同施設の目玉である「3連P・ウォーク」は、吊り下げ（免荷）装置が付いており、普段車いすを使う人でも背筋を伸ばした姿勢でリハビリができる。職員も常に2人付き、安全性も担保。実際に「3連P・ウォーク」で歩行のリハビリを行っている入居者の表情は、真剣でありながらもどこか楽しそうな雰囲気がある。低負荷の運動を繰り返して行う「パワーリハビリ機器」は全部で6機種を備えており、入居者の体力に合わせてリハビリの内容を設定できる。軽いリズムミカルな動きの全身運動で、歩行に必要な基礎体力の向上を図っている。

機能訓練指導員の江波戸寿樹さんは「リハビリには機器を使うので、初めは積極的に取り組んでくれるかわかりませんが、一生懸命に楽しんで取り組んでくれます。なので、それに応えていけるようサポートしていきたいです」と抱負を語った。

続きは、本誌11月号をご覧ください